



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第47号

2022年1月18日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

緒川小学校ウィークリーSP 1月18日の様子

1月18日、この日は朝から雪がちらつき真冬らしいとても寒い日でしたが、緒川小学校に行くと3人のSPさんが来てくれていました。「明日まで大学はテストです。帰ったらすぐ勉強します！」と話していたSPさんもありました。忙しい中でも、凍えるような寒い日でも、ウィークリーSPとして定期的に活動を続けてくれるSPさんに東浦町のSP活動は支えられています。ありがとうございます。



←片葩小で開催された「冬休みわくわく算数教室」で、スピリット(実行委員会)としても活動してくれた相澤SP。養護教諭を目指しているSPさんです。少し前には、「保健室の先生が授業をされるから」と、普段活動をしない曜日にも学校に来ていたそうです。学ぶ意欲がすごいSPさんです。スツとかがんで子どもと目線を合わせることが自然にできる相澤SP。最初は遠慮がちな様子でしたが、今では放課中に保健室の外で子どもたちに積極的に声をかけていました。

北部中ウィークリーSPの幸^{ゆき}SP。「緒川小でも活動をしたいです」と先日連絡をくれました。この日は特別支援学級の算数の授業に入り、児童2人の支援をしていました。ウィークリーSPの経験が長い幸SP。終始穏やかな明るいトーンでの声かけで、1人の児童はどんどんプリントを進めていました。もう1人の児童の対応に困る瞬間があったのですが、それでも何とか学習に向かえるように考えて声をかけてくれました。これが現場です。これが生の子どもたちです。この経験が何ものにも代えがたい学びです。きっと担任の先生の対応も、耳をダンボにして聞いていたことでしょうか。自分が担任だったらこんな時どうするか？考えるきっかけになりますね。 →



←現在大学2年生の久米SP。この日は4年生の図工の授業に入っていました。笑顔で明るい久米SPは、積極的に子どもたちに声をかけていました。中学年になると、見守る時間がとても大切になります。それを肌で感じて、「見ているよ」という温かい視線で支援をしていました。明るい雰囲気^{きんぐわい}の久米SPが、方々で子どもたちと楽しそうに話している姿が印象的でした。

SPさんは、放課中に何をして過ごしていますか？活動を見させてもらおうと、かなり“本気で”遊んでくれているSPさんがちらほらいます。「放課中に遊ぶこと」は実はとても大切です。シニアSP(卒業生)は、SP時代に遊ぶ時間の大切さに気づき現場に出ても何とか遊ぶ時間を確保するようにしているようです。ぜひ、放課中も積極的に子どもたちと関わってみてください。